

研究の構想

<学校教育目標>

仲良くする子 元気な子 考える子

社会の変化と道徳教育

- ・社会全体のモラルの低下
- ・家庭や地域社会の教育力の低下
- ・社会体験、自然体験の不足
- ・社会の変化に伴う様々な課題への対処

児童の実態

友だちと仲良くしようとする姿が全体的にみられるが、相手の気持ちと自分の気持ちのどちらも考えたり、感じたりしながら接することに難しさを感じている。また、互いの思いを上手に取り入れる力の向上が必要である。

道徳教育の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

教師の願い

- ・自分の事をきちんと行うことができ、相手の気持ちを考えられる児童に育ってほしい。
- ・相手の気持ちや意見を素直に受け止め、さらによりよい方向へと考えを向けることができる児童に育ってほしい。

<主題>

豊かな心を持ち、生き生きと学び合う児童の育成 ～見沼っ子生き生きプランの推進～

<目指す児童像> 仲良くする見沼っ子

<仮説1>

心が通い合う道徳の授業を展開すれば、豊かな心を持ち、生き生きと学び合う児童を育成することができるであろう。

<仮説2>

各教科・領域での計画的、発展的な指導、環境の整備、地域・家庭との連携を推進することで、豊かな心を持ち、生き生きと学び合う児童を育成することができるであろう。

低学年

(1年・2年)

中学年

(3年・4年)

高学年

(5年・6年)

特別支援学級

(5組)

【指導法研究部】

- ・授業展開の研究
- ・資料分析の研究
- ・道徳教育計画の見直しなど

【環境整備部】

- ・掲示物の作成
- ・校内掲示板の活用
- ・授業で使用する場面絵の整備など

【道徳教育】

- 手立て1 道徳的实践を組み入れた活動
 - ・体験活動の充実
 - ・特別活動、人間関係プログラム等との関連
- 手立て2 環境の充実
 - ・教室などへの常掲
 - ・道徳的な言葉
- 手立て3 地域・家庭との連携
 - ・授業参観等での授業公開

【道徳授業】

- 手立て1 資料分析の充実
 - ・資料分析図の作成、活用
 - ・資料に即したアンケートの作成
- 手立て2 展開の工夫
 - ・導入、終末の工夫
 - ・動作化、役割演技
 - ・話し合い活動の充実
- 手立て3 資料の工夫
 - ・ワークシートの工夫
 - ・場面絵の活用